

# 金竜だより

令和3年 9月 1日  
台東区立金竜小学校  
TEL 3871-9893  
ホームページ



<https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310230>

## あきらめない心とチャレンジ精神

校長 古谷 尚律

8月8日に東京オリンピックが閉会しました。本校卒業生のフェンシングフルーレ男子の日本代表選手の松山恭助選手も、個人14位、団体4位入賞という素晴らしい成績を残すことが出来ました。みなさん応援をありがとうございました。

その戦いぶりを細かく見ていくと、かなりの激戦で素晴らしい戦いぶりでした。オリンピック前の成績では、世界ランキングで見ると松山恭助選手は個人では32位、団体日本は6位だったそうです。

まずは7月26日の個人戦。3回戦の対戦相手は、イタリアのD・ガロツォ選手(世界ランキング7位)でした。15点マッチの14対14まで迫り、互いに「あと1ポイント」という大接戦の末、マッチポイントを取られての惜敗でした。イタリアのD・ガロツォ選手は前回のリオ大会の金メダリストで、松山選手との戦いの後は順調に勝ち進み、銀メダルを獲得した選手でした。結果的には松山選手との一戦が一番の大激戦だったかと思われます。

次に8月1日の団体戦。準々決勝戦で日本はイタリア(世界ランキング3位)戦で勝利を収めました。アンカーの松山選手までは40対39で相手にリードされてからの逆転劇でした。しかも最後の対戦相手は個人戦で惜敗したD・ガロツォ選手でしたが、3ポイントをリードしての逆転勝利でした。

続く準決勝のフランス(世界ランキング2位)戦でも、アンカーの松山恭助選手まで40対32でフランスにリードされていました。その中、松山恭助選手はあきらめずポイントを詰める活躍を見せました。残念ながら45対42で敗れ、3位決定戦に臨むこととなりました。

こうして見ていくと世界のトップアスリートたちは、メダル獲得に向けて、僅差の中で互いにしのぎを削りあっていたことが分かりました。

松山恭助選手は試合後、新聞記事によると「悔いはない」と言い切り、家族への感謝を口にしたそうです。

また、金竜小学校へもわざわざお礼の手紙をくださり、感謝の言葉と共に「既に3年後のオリンピックを見据えて、挑戦のスイッチを入れています」と決意の言葉もありました。

コロナ禍により1年伸びた東京オリンピック。松山恭助選手は「この時期を絶対に無駄にしない」と、隅田川の河川敷を走り込み、昨年9月には全日本選手権を4年ぶりに制して、東京オリンピックの代表選手に選ばれて臨んだ大会でした。

金竜小学校の児童も、今大会の松山恭助先輩の姿から「あきらめない心」と「次なる目標へ向けたチャレンジ精神」を学びとってくれたらと思います。そのために教職員で見守り、支えていきたいと考えます。2学期もどうぞよろしくお願いたします。

## お知らせ 学校等連絡サービス「クロモ」について

「ツイタもん」から一部変更になる、「クロモ」への御登録ありがとうございました。今後は、学校よりのメールは「クロモ」を通じて行いますので、御確認をお願いいたします。また、「クロモ」で遅刻・欠席連絡ができますので、御活用ください。

「クロモ」を活用し、9月2日(木)にテストメールを送ります。届かない御家庭がありましたら、各担任までお知らせください。

尚、登下校のお知らせについては、今まで通り「ツイタもん」から送られます。2学期以降も「ツイタもん」のタグは、ランドセルに入れておいてください。よろしくお願いたします。